

行事開催報告

科学技術週間「一般公開」自然災害を学ぼう!

毎年恒例の一般公開を、つくば本所では4月20日に実施しました。天候にも恵まれ、1422人の来場者を迎え大盛況の内に終了しました。研究成果の発表、様々な科学実験、五重塔耐震実験、豪雨体験、ピンポン玉なだれ体験、サバメシ体験、ミニ講演会等を実施し、子供から大人まで楽しめるイベント群は、アンケートから

も来場者に大好評だったことが伺えました。

雪氷防災研究センター（長岡）では、4月18日、19日に実施され、143人の来場者を迎えました。人工雪結晶の作成実験やダイヤモンドダストの実験、氷点下でも凍らない水などの科学実験に、子供たちも興味津々で笑顔が絶えませんでした。



五重塔耐震実験



ピンポン球なだれ体験



E-ディフェンスを活用した耐震実験研究



人工雪結晶の作成実験（長岡）

受賞報告

「E-ディフェンスと大大特Ⅱ」で日経BP技術賞（建設部門）を受賞

防災科研は、「E-ディフェンスの建設技術と、これを用いた実大震動実験」により、2008年の日経BP技術賞（建設部門）を受賞しました。その表彰式が、4月4日にホテルオークラ東京で行われ、当所の中島正愛兵庫耐震研究センター長のほか三菱重工業株式会社及び実大震動実験の研究代表者が出席し、表彰を受けました。

兵庫県三木市に建設された実大三次元震動破壊実験施設（愛称：E-ディフェンス）は、兵庫県南部地震（1995年）クラスの地震動を前後・左右・上下の三次元の動きで再現することができます。実際の構造物の破壊過程を検証することができます。文部科学省「大都市大震災軽減化特別プロジェクトⅡ震動台活用による構造物の耐

震性向上」では、E-ディフェンスを用いて、実大規模の木造住宅、鉄筋コンクリート建物、地盤・基礎構造を三次元の地震動で揺らして破壊する初めての試みが行なわれました。このような実大破壊実験の成果を耐震技術やシミュレーション技術の高度化に活用することで、大地震による建物の被害を軽減することが期待されており、社会的意義が極めて高いと評価されました。



喜びの受賞者
（右下は、今回海外出張中のため欠席された片山前理事長）

受賞報告

第49回科学技術映像祭で「主催者賞」を受賞



有馬朗人映像祭運営委員長から賞状を頂きました

当研究所が制作したビデオ作品「地震研究の最前線！～地震から社会を守るサイエンス～」が、「第17回 TEPIA ハイテク・ビデオ・コンクール」で「奨励賞」を受賞したのに続き「第49回科学技術映像祭」においても「主催者賞」を受賞し、4月18日に科学技術館サイエンスホールにおいて表彰式が行われました。

この作品は、当研究所と科学技術振興機構が NEC メディアプロダクツに依頼し、共同で制作した29分の作品で、世界最大の実大三次元震動破壊実験施設「Eーディフェンス」をモチーフに、震災を軽減するために科学技術にできることは何かを紹介しています。

また、「緊急地震速報」や、「地震ハザードステーション」など、当所の最新の研究成果を紹介しています。

科学技術映像祭は日本でもっとも権威のある科学技術の映像祭で、入選作品は、日本各地で上映会が行われ、科学技術の普及啓蒙を行っております。

受賞ビデオは、当所の Web サイトからも見ることが出来ます。皆様もぜひご覧下さい。

受賞報告

松村研究員らが2007年度日本地震学会論文賞を受賞

地震研究部の松村稔研究員らが、論文「高精度即時震源パラメータ解析システム (AQUA) の開発、地震2, No59, 167-184、2006、松村稔・伊藤喜宏・木村尚紀・小原一成・関口渉次・堀貞喜・笠原敬司」により、2007年度日本地震学会論文賞を受賞しました。

本論文は、高感度地震観測網 Hi-net 及び広帯域地震観測網 F-net のデータを即時的に解析し、震源要素からセントロイド・モーメントテンソル (CMT) 解の推定、ならびに解析結果の情報発信までの一連の処理をすべて自動的に行う AQUA システムの構築と、その信頼性について議論したものです。

日本地震学会の学術誌「地震」または「Earth,



授賞式の会場の様子

Planets and Space」に発表された優れた論文により、地震学に重要な貢献をしたと認められる者が日本地震学会論文賞に選ばれます。

AQUA システムについてはこちらをご覧ください (http://www.hinet.bosai.go.jp/AQUA/aqua_exp.php)。

受賞報告

廣瀬主任研究員が「EPS賞」を受賞



蓬田 EPS 編集長から賞状を頂く廣瀬主任研究員（左）

地震研究部の廣瀬主任研究員が「西南日本で深部低周波微動に伴うスロースリップの地殻変動を検出し、その活動状況を明らかにした成果」が認められ EPS 賞を受賞しました。

EPS 賞は、Earth Planets and Space 誌に掲載された論文の中から、36才未満の筆頭著者に毎年 1 名のみ授与される賞です。

表彰式は、5月28日、幕張メッセで開催され

た「日本地球惑星連合2008年大会」の「懇親会」時に行われ、蓬田 EPS 編集長から賞状と、「海外学会参加」の副賞を授与されました。

受賞後、廣瀬主任研究員は、「大変栄誉ある賞を頂きありがとうございました。今回の論文は、スロースリップや深部低周波微動という、比較的新しい自然現象を扱ったものです。巨大地震と密接に関係しているという考えもあり、今後も積極的に研究を進めて行きたいと考えています。

EPS 関係者の皆様、防災科研の皆様、この論文を発表したシンポジウムを開催された名古屋大学の皆様、防災科研 Hi-net や国土地理院 GEONET に携わってこられたすべての方々に深く感謝致します」と謝辞を述べました。

受賞報告

片山前理事長が平成19年度土木学会賞(功績賞)を受賞

片山恒雄前理事長（現 東京電機大学教授、東京大学名誉教授）が平成19年度土木学会賞（功績賞）を受賞され、5月30日にホテルメトロポリタンエドモントで開催された土木学会通常総会において授賞式が行われました。土木学会功績賞は、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の運営に顕著な貢献をなしたと認められた会員に授与されるものです。

片山恒雄前理事長は、平成8年9月に防災科学技術研究所に所長として着任され、平成18年3月までの10年間、当所のトップとして、阪神・淡路大震災後の当所の運営方針の策定

および数々の国の地震防災の基盤となるプロジェクト（強震計ネットワークや高感度地震観測網の整備と観測データの公開、世界最大の3次元震動実験施設の実現等）の推進に尽力されました。今回の受賞では、前理事長の防災科学技術研究所のトップとしての活動も大きく評価していただいております。所員一同大きな喜びとするところです。



喜びの片山前理事長

編集・発行



独立行政法人

防災科学技術研究所

〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1 企画部広報普及課

TEL.029-863-7783 FAX.029-851-1622

URL : <http://www.bosai.go.jp/> e-mail : toiawase@bosai.go.jp

発行日

2008年7月22日 発行 ※防災科研ニュースはホームページでもご覧いただけます。

